

NO.	出展分野	機関名	出展責任者	役職	所属	出展課題名	技術概要	想定される活用例	お問い合わせ先
1	マテリアル・リサイクル	株式会社社会津工場	吉田幸男	室長	業務改革室	Hプロセス工法によるロストワックスに迫る精密鑄造をダクタイル薄肉鑄物製品で実現	①薄肉精密鑄物開発での軽量化・高精度寸法による加工レス実現化 ②加工レス・5部品を一体化での低コスト化 イギリスからの基本技術を独自進化させた世界唯一のHプロセス工法を有し、ロストワックス法と同程度のダクタイル精密鑄造を可能にしている。展示では、他に類を見ない軽量・精密な鑄物部品の開発から量産製造を短納期・低コストで実現している加工レス製品および加工レス・5部品を一体化での低コスト化製品事例をご紹介します。	現在は、主に自動車鑄物部品 過給機部品 機械装置鑄物部品 給湯器部品 建築用部品等でのダクタイル鑄造品のニーズを多く頂いている。金型設計から製造迄の一貫した製造実績をベースにお客様へ競争力あるものづくりソリューションを提供させて頂きたい。	info@kabuaizu.co.jp□
2	マテリアル・リサイクル	大阪工業大学	伊與田宗慶	講師	工学部 機械工学科	溶接継手の強度改善に貢献する健全性評価技術と溶接手法	抵抗スポット溶接部の健全性評価技術について、光ファイバー温度計を用いた溶融部形成評価技術を開発しました。本手法は光ファイバーを用いた溶融部の温度測定技術と、抵抗値測定による発熱量の評価技術により、溶融部形成評価に関する信頼性向上が見込まれます。□ また、異種金属の接合特性が向上する溶接手法を開発しました。本手法は溶接に使用する電極形状を変化させることで、鋼板内部の温度を制御するものです。この手法を用いることで鋼-AI合金の抵抗スポット溶接継手において、従来手法と比較して2倍以上の強度改善が見込まれます。	<ul style="list-style-type: none"> 抵抗スポット溶接時の内部温度の実測評価□ 溶融部形成の有無、溶融部の大きさに関する非破壊検査□ 異種金属抵抗スポット溶接継手の接合強度向上 	大阪工業大学 研究支援・社会連携センター
3	マテリアル・リサイクル	鹿児島工業高等専門学校	徳永 仁夫	准教授・副校長（国際交流担当）	機械工学科	空気圧を利用して発生させた水中衝撃波の応用	極めて短い時間内に大きなエネルギーを素材に与え、高ひずみ速度で塑性加工を施す“衝撃水圧成形法”に着目する。我々は、火薬や高圧電流など危険を包含する要素を使用せず、空気圧を利用して発生させた水中衝撃波を金属ポンチの代わりとしてプレス成形を行う手法を確立した。さらに、この技術では空気圧によって水中衝撃波の強度（圧力）をコントロールすることができる。この技術は、金属の塑性加工だけでなく、金属材料の特性評価、あるいは工学以外の分野への応用も期待できる。	機械工学分野では難加工材（金属）の塑性加工に適用することで、通常のプレス成形では加工困難な形状、材質の部品を簡易、安全、クリーン、低コストに生産できる。また、高ひずみ速度域での金属の塑性に関する評価に活用できる。その他、環境分野として水質浄化技術、医療分野として結石破碎技術などへの活用が想定される。	h-tokunaga@kagoshima-ct.ac.jp
4	マテリアル・リサイクル	九州大学	谷口育雄	准教授	カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所	常温成形可能な生分解性プラスチック	プラスチックは一般的に溶融成形により成形されるが、その消費エネルギーが大きく、また加熱時に高分子主鎖の断裂が起こり物性が低下する。よって、リサイクル性に乏しく、また化石資源枯渇が問題となっている。ここで展示するプラスチックは再生可能資源から合成することが可能（化石資源保護）な生分解性高分子材料（環境低負荷）であり、常温成形が可能である。よって、従来の加熱溶融の必要がないため、格段に省エネルギーであり、かつCO2排出も削減可能であり、次世代のプラスチック材料として期待されている。	<ul style="list-style-type: none"> ドラッグデリバリーシステムにおける薬物徐放マトリクス（農薬含有農業用マルチなど）□ 省エネルギー性記憶材料として、レーザープリンター用トナー（熱圧着を加圧圧着に）□ 将来的にはポリエチレン、ポリプロピレンなど汎用プラスチック材料の代替 	http://i2cner.kyushu-u.ac.jp/~ikuot/

NO.	出展分野	機関名	出展責任者	役職	所属	出展課題名	技術概要	想定される活用例	お問い合わせ先
5	マテリアル・リサイクル	熊本高等専門学校	井山 裕文	教授	機械知能システム工学科	水中衝撃波によるマグネシウム合金板の高速成形	衝撃波は伝播する媒体の音速を超えて移動する圧縮と膨張を伴う圧力波である。ピーク圧力は数十MPa（数百気圧）～数十GPa（数十万気圧）にもなり、作用時間は数マイクロ秒～数ミリ秒となる。まずこの衝撃波を利用した難成形材であるマグネシウム合金板およびアルミニウム合金板の成形に関する研究を紹介する。マグネシウム合金は常温での成形が困難な材料である。高ひずみ速度が容易に得られる衝撃成形において、その成形性について評価を行っており、その変形メカニズムを含めた研究内容を紹介する。	衝撃波を利用した成形技術の特徴は、ほとんどスプリングバックが生じないので、型形状の転写性に優れており、成形形状においては精度が高い成形が可能と考えられる。また、金属性の金型ではなく、砂、紙、石膏、木材など、型材料を選ばないので、単品や少量生産の製造にも活用できる。これらの技術を利用し、自動車部品から航空宇宙関連の部品製作に役立てることができる。また、書道の文字や美術的要素を含むような紙や樹脂製の型を用いれば、美術品制作にも活用できる。	eyama@kumamoto-nct.ac.jp
6	マテリアル・リサイクル	熊本大学	和田 翼	リサーチ・アドミニストレーター (URA)	熊本創生推進機構 イノベーション推進部門	KUMADAIマグネシウム合金の開発	環境問題・エネルギー問題の観点から、各種輸送機起用軽量材料の開発が必要である。Mg合金は実用金属中、最も軽量である。本学では、長周期積層構造 (LPSO) 相をもち、従来のマグネシウム合金の2倍以上の強度があり、高温強度にも優れるKUMADAIマグネシウム合金を開発した。また、従来のマグネシウム合金の欠点である燃えやすさを克服したKUMADAI不燃マグネシウム合金を開発した。□ さらに、マグネシウムは生体に影響が少ないことから、生体吸収性の医療用材料として自金開発を行っている。本展示では、KUMADAIマグネシウム合金の開発と応用、およびその特性発現の機構について紹介する。	自動車、鉄道、航空機等の輸送機器用材料。□ エンジン部品。パソコン等電子機器の筐体。□ 生体吸収性医療材料。軽量福祉機器。	liaison@jimu.kumamoto-u.ac.jp
7	マテリアル・リサイクル	工学院大学	阿相英孝	教授	先進工学部 応用化学科	アノード酸化による金属・半導体表面の微細構造の制御	アルミニウムをアノード酸化することで形成される多孔質酸化皮膜 (アノード酸化ポーラスアルミナ) は、これまでアルミニウム基板に対し装飾性・防食性を付与する観点で研究が進められてきたが、近年ではその孔径や孔配列の規則性が注目され種々のナノデバイスを作製する際の鋳型構造や、ナノレベルの凹凸・ナノ空間を利用した反応場としても関心を集めている。当研究グループでは、アルミニウム以外にも種々の金属、半導体に対してアノード酸化をはじめとするウエットプロセスを用いてナノスケールの微細孔を持つ酸化皮膜やナノポーラス表面を形成する手法に関し研究を行っている。	使用する材料ならびに作製する表面の構造に応じて以下のような活用例が考えられる。□ ①耐食性、耐摩耗性の付与、②鋳型 (テンプレート)、マスクとしての応用、③各種フィルター、④ナノ・マイクロ反応場など□	工学院大学 研究戦略部 研究推進課 産学連携担当□ 東京都新宿区西新宿 1-24-2 □ E-mail : sangaku@sc.kogakuin.ac.jp TEL : 03-3340-3440
8	マテリアル・リサイクル	電気通信大学TLO (株式会社キャンパスクリエイト)	安田 耕平	代表取締役		ヒートシンク式レーザー樹脂溶着法	従来の工法においては、熱板や熱風による溶着では、ビード処理やガス被毒の問題があり、工程の増加や作業者の熟練度を要するものでした。また、レーザーを導入した溶着法が近年見られますが、「透過材+吸収材」の組合せを必要とするなど自由度のある工法ではなく、すべてのニーズに応えられるものとはなっていません。 「ヒートシンク式レーザー樹脂溶着法」では、以下の特徴を持っている。 1.レーザー光を透過し伝導率の高いヒートシンクを接触設置 ⇒樹脂表面の温度が低下し、溶着箇所だけ温度がより高く上がり溶着が可能となります。 2. 1の効果により熱損傷は生じないので、発泡・ガスの発生は無く生産環境の悪化を防ぐことが可能となりました。	ヒートシンク式レーザー樹脂溶着では、重ね合せ溶着において、上側の部材からレーザー吸収発熱し、深部へ溶融が広がっていき、界面を挟んで溶融一体化します。この際、レーザー照射面での余分な発熱を上部のヒートシンクが放熱するため、表面で過熱による損傷が起きません。「表面冷却・内部溶融」の実現できます。 半導体製造装置や医療機器には、高い耐熱性、耐薬品性、耐摩耗性が求められます。樹脂部材としてそれらに応えられるのは主にフッ素樹脂です。また更に高いクリーン度を要求されるこの分野では、外部溶融をしないヒートシンク式レーザー樹脂溶着の効果を活用できます。	yasuda@campuscreate.com 安田

NO.	出展分野	機関名	出展責任者	役職	所属	出展課題名	技術概要	想定される活用例	お問い合わせ先
9	マテリアル・リサイクル	福島工業高等専門学校	赤尾 尚洋	特命准教授	機械システム工学科	熱電変換材料の高強度・高性能化に関する研究	日本で消費される一次供給エネルギーのうち約70%は廃熱として捨てられている。この廃熱の大半が600℃以下の低・中温熱であり、廃熱を電力に直接変換する熱電変換技術が近年注目されている。熱電変換材料として、室温近傍で良好な熱電性能を示すBi ₂ Te ₃ 系化合物や、200～500℃の中温域で優れた性能を示すZn ₄ Sb ₃ などが挙げられる。これらの熱電材料の多くは金属間化合物であり、非常に脆いという性質を持つ。これらの材料において熱電性能を維持しつつ、この脆さを克服することで、耐久性が向上し、幅広い応用が可能となる。□ 我々は、この熱電材料の材料組成および作製プロセスの検討を行うことで機械的性質の向上を中心にさらなる高性能化を目指している。□	廃熱温度によって適用できる熱電材料の種類は異なり、200℃以下の低温熱の場合、ビスマステルル(Bi ₂ Te ₃)系化合物が適している。Bi ₂ Te ₃ 系化合物は、室温近傍で良好な熱電性能を有するため、温冷庫、コンピュータのCPU等電子機器の冷却や温度制御などに利用される。また、中温域で性能が優れたZn ₄ Sb ₃ 化合物は自動車排気熱、廃棄物処理廃熱、化学・鉄鋼工場等様々な産業および市民生活から排出されている小規模・分散型未利用廃熱を電力に変換する材料として期待できる。	福島工業高等専門学校 機械システム工学科 赤尾尚洋 email: akao@fukushima-nct.ac.jp
10	マテリアル・リサイクル	法政大学	明石 孝也	教授	生命科学部環境応用化学科	廃LED素子からの有価金属の乾式リサイクル装置の開発	廃LED素子から酸化ガリウムを分離・回収するため、熱還元-酸化法を利用した噴流床式反応炉を用いた装置設計を開発した。Ga ₂ O ₃ から構成される廃LED素子からガリウムをGa ₂ O(g)として分離するために、極微量の酸素を含む還元ガスを大量に供給する必要がある。本装置設計では、これを実現するために、噴流床式を採用した。なお、この方式では、分離されたGa ₂ O(g)は噴流床の上方で酸化され、ガリウムはGa ₂ O ₃ (s)として回収される。また、本装置設計に基づき卓上型リサイクル装置を製作し、この卓上装置を用いて廃LED素子から酸化ガリウムを分離・回収することに成功した。	主に廃LED素子からのレアメタルリサイクルへの活用が想定される。LED素子に含まれるGa ₂ O ₃ は酸に溶解しにくい材料のため、本技術で採用した乾式製錬の手法に優位性がある。近い将来に次世代パワーデバイスのGa ₂ O ₃ が実用化されれば、ガリウムのリサイクルに対するニーズが高まると想定される。なお、本技術はインジウムの分離・回収にも適用できるため、Cu-In-Ga-Se化合物半導体(CIGS)太陽電池やIn-Ga-Zn-Oアモルファス半導体(IGZO)液晶ディスプレイや酸化スズドープ酸化インジウム(ITO)透明導電膜を用いた電子機器からのガリウムやインジウムの分離・回収への活用も想定される。	法政大学 生命科学部 環境応用化学科 教授 明石 孝也 電話：042-387-6242 電子メール： akashi@hosei.ac.jp
11	超スマート社会	中部大学	常川 光一	教授	電気電子システム工学科	自律思考ロボットとEV電波マーク式自動走行/無線充電	・自律思考ロボット 現ヒューマノイドロボットは、適切かつ一般的な受答えをDBより選ぶ。本ロボットは個人の性格、感性を学習して行動(発言)する。その学習サイトをHEMSとして試作した。また量子コンピュータである人の脳を単純ハードウェアで実現し、各種センサデータを高速処理してリアルタイムで行動する。 ・EV自動走行/無線充電 現自動運転では画像データが重要である。本自動EVは地上の電波マーク(小片金属板)を追従し、そこを起点に次マークまでの走路を決める。これでオートバレー駐車を実現し、簡易な設備で自動無線充電をする。	・クローン型のヒューマノイドロボット ・個性と感性(温かみ)のある、介護/家事ロボット ・天候や場所(地下等)、時刻に依存しないオートバレー駐車場 ・設置が容易/安価で、車種・規格に依存しない自動無線充電	http://www.isc.chubu.ac.jp/tsunelab/
12	超スマート社会	長崎県立大学	森田 均	教授	国際社会学部	路面電車網から構築するICT統合型インフラSTING	Bluetooth LEビーコン、GPS及びNFCタグ等を駆使して構築した路面電車網沿線のナビゲーションシステムを基礎として交通「T(transport)」と情報通信「I(nformation) N(etwork)」にエネルギー網「G(rid)」を加えて構築する統合型インフラSTINGの提案を行う。これにより電車は人を運ぶのみならず、情報通信の担い手にもなり、路面電車の電力網が街の電力網と調和する。STING構想を様々な地域で人に優しく災害に強い街づくりに役立てることを、最終的な目標としている。	・自治体やNPO等によるまちづくり、まちおこし ・歩行に支援を必要とする方々の移動 ・観光客等、歩行者のまちなか回遊支援 ・ローカル版Maasの構築	kikaku-g@sun.ac.jp (長崎県立大学シーボルト校事務局企画グループ)

NO.	出展分野	機関名	出展責任者	役職	所属	出展課題名	技術概要	想定される活用例	お問い合わせ先
13	超スマート社会	名古屋工業大学	伊藤 孝行	教授	大学院 情報工学専攻口	NITech AI研究センターを中心とした実践研究事例の紹介	NITech AI研究センターは、地に足のついたAI技術をコアとするイノベーションハブとして、社会や産業の発展に貢献します。社会や産業の課題に対し、名古屋工業大学の広範な工学分野と緊密に連携し、ソリューションを共創します。当センターは4つのミッションを追求します：（1）先端的・革新的な知能計算技術の追求（2）幅広い出口による産業界・地域社会への貢献（3）学術・産業グローバル展開（4）AI人材育成。これらのミッションを達成するために、先端知能計算研究部門、データサイエンス研究部門、情報基盤研究部門、および社会連携部門を設置しております。特に、AI技術による東海地区を中心とした日本の産業の強化に貢献していきます。	名古屋工業大学では、NITech AI研究センターを中心としてAI・IoTの実践的な研究の場を提供しています。社会に存在する様々な課題を研究者と企業らが協力することで実践的な研究を行なっています。主な研究実績として、エージェント技術により炎上などのネット上の大規模な議論特有の現象を防ぎながらより良い合意形成を支援する大規模合意形成システムや、海産養殖支援を目的とした高精度海水温予測システム、災害時の被害把握を目的とした自律分散ワイヤレスセンサネットワークなどがあり、幅広く社会に適用可能な研究を行なっています。	http://airc.web.nitech.ac.jp/
14	装置・デバイス	静岡大学	木村雅和	理事・副学長		革新的光科学、新科学領域、そして新しい光応用産業を創造する。□ -「光の先端都市HAMAMATSU」で、豊かな持続的な社会の実現のために□ 時空を超えて光を自由に扱う。	I. 可視光領域の技術 (1) ①CMOSグローバル電子シャッタ“全面素一括同時露光”技術、②列並列AD変換回路技術、③超低ノイズ化技術 (2) 人の色域とカメラの色域とを等しくし、カメラ出力の色と物体の色と一致させる技術 II. IR領域の技術 (1) 視線検出用のカメラを用いて、視線を一致させた対話を可能とするテレビ電話の技術 (2) 前頭葉表層組織の厚みの影響を低減させた高分解能近赤外光イメージング技術（NIRS） III. X線領域の技術 小型線源と小型検出器を実現したデジタルフォトンカウンティングX線CT技術 IV. テラヘルツ領域の技術 連続波単色コヒーレントテラヘルツ光源を用いたイメージング技術	(1)実物がその場に存在するような8Kスーパーハイビジョン高精細ディスプレイ□ (2)人が見た通りの色を忠実に伝送し再現するカメラ等□	電話：053-478-1702□ E-Mail： sangakucd@cjr.shizuoka.ac.jp
15	環境保全	宇都宮大学	酒井 保藏	准教授	工学研究科 物質環境化学専攻	汚泥処理や維持管理を軽減できる磁気分離水処理応用の新展開	1) 磁気分離を活性汚泥法に導入した磁化活性汚泥法は、高濃度の汚泥を保持して、自己消化の割合を高め、余剰汚泥引抜きなしで運転でき、維持管理の簡易化や汚泥処理が軽減でき、活性汚泥法の主要な課題を解決できる可能性がある。□ 2) メタン発酵に磁気分離を導入した場合、高濃度化により、数倍の高速メタン発酵が可能となる。□ 3) 近年、磁性粉のコストダウンで凝集分離法への磁気分離導入も可能となり、分離装置のコンパクト化、濃縮・脱水処理の簡易化などが期待されている。□ など磁気分離の水処理応用の最新情報を展示する。	・生物学的水処理法への磁気分離導入により余剰汚泥削減・運転管理の簡易化・コストダウンを実現□ ・水処理から発生する汚泥処理の負担軽減□	宇都宮大学 工学研究科 物質環境化学専攻□ 准教授 酒井保藏□ sakaiy@cc.utsunomiya-u.ac.jp□ 028-689-6153
16	環境保全	埼玉工業大学	本郷照久	准教授	生命環境化学科 環境材料化学研究室	廃棄物・未利用資源を活用した環境汚染物質の吸着・除去材料	廃棄物を原料とした環境浄化材料の合成法を確立することで、“廃棄物の削減”と安価で効果的な“環境浄化技術”が両立する環境調和型プロセスの開発を進めている。 環境浄化材料としては、排水や排ガス中に含まれる有害物質・環境汚染物質に対して吸着能・除去能を有した材料を対象にしている。 排水に関しては、高濃度の各種重金属類（鉛、銅、亜鉛、カドミウム）やフッ素・ホウ素などを効果的に処理することのできる材料を紹介する。 排ガスについては、活性炭が不得意とする親水性の揮発性有機化合物（VOC）に対して高い吸着能を有した材料を紹介する。 廃棄物には、火力発電焼却灰、鉄鋼スラグ、コンクリート廃棄物、規格外鉍物資源などを用いている。	・廃棄物の減容化と新規付加価値化 ・廃棄物・未利用資源の新規需要開拓 ・排水・排ガス処理の低コスト化 ・処理設備にかかる費用の減額化	sangaku@sit.ac.jp

NO.	出展分野	機関名	出展責任者	役職	所属	出展課題名	技術概要	想定される活用例	お問い合わせ先
17	環境保全	中央大学	山村 寛	准教授	理工学部	使い古した海水淡水化膜を工業廃水処理にリユース、リサイクルする技術	近年、淡水需要の増大に伴って、海水淡水化膜の需要が増大している。海水淡水化膜は、3年から5年使用して脱塩率が低下した後に、埋立処分もしくは焼却処分されているが、廃棄量の増大に伴って、その適正処分が課題となっている。海水淡水化需要のある地域では、同時に排水再利用の需要もあり、排水処理にRO膜を利用することも少なくない。本研究では、使用済みの海水淡水化膜を適度に改質することで、工場排水処理に再利用する手法の開発に取り組んだ結果について紹介する。	システムの活用例 ①バルブ排水処理を改質RO膜で処理することで、さらに冷却水として再度利用するための水循環システムを構築 ②研磨工場から排出された排水を改質RO膜で処理することで、冷却水や研磨水として再利用するシステムを構築 ③食品工場排水から排出される有機物負荷の高い排水を処理するためのシステムを構築 改質方法の活用例 ①新しい表面機能を持ったRO膜素材の開発に繋がる ②リサイクルしやすいRO膜の開発に利用できる	研究室のHP： http://yamamura.waterblue.ws
18	環境保全	東洋興商株式会社	生田 博美	代表取締役社長		「室内循環型レンジフード用光触媒脱臭装置」の開発における「PAH低減性能評価試験」の実施報告	IHクッキングヒーター用の室内循環型レンジフードに組み込む高性能なハイブリッド光触媒脱臭ユニットの開発を目的とした。食品の加熱調理は喫煙や暖房と並んで屋内の空気環境に影響を及ぼす重要な因子の一つである。調理排気中には、におい成分のほかオイルミストや微粒子が含まれる。これらオイルミストや微粒子には、しばしば不完全燃焼により生成される多環芳香族炭化水素(PAH)が含まれる。PAHは光触媒作用により部分酸化された後より毒性の低い低分子量の分子、さらに二酸化炭素へと酸化されたと推察される。レンジフードを用いた試験により、揚げ物の蒸気またはオイルミストに含まれるPAHを分析し、それらの濃度が光触媒脱臭装置を通過する際に低減されることを確認できた。ハイブリッド型光触媒脱臭装置の官能試験方法による性能評価(入口・出口の差)は全4回とも脱臭効率94.8%～99%の結果が得られた。	①、コンビニエンスストア等店舗内電気フライヤーのレンジフード組込使用及び高級マンションキッチン用IHレンジフード組込等業務用厨房機器メーカー及び住宅厨房機器メーカーとの共同開発製品に活用。②、VOCの低減装置として中小企業の印刷業界も有望な市場であり、トルエンのISO(光触媒空気浄化試験)において94.1%の除去率と評価されている。③、下水道処理施設臭気対策及び産業廃棄物処理施設等の臭気対策設備機器として活用。④、臭気拡散防止対策環境保護対策全搬に活用可能(実証実験切望する)日本国国家試験(臭気判定士)を複数人在籍し、臭気コンサルが対応する。	info@toyokosho.co.jp
19	環境保全	富山高等専門学校	袋布昌幹	教授	物質化学工学科	鉱物化技術による未利用フッ素・リン資源の機能性資材へのアップグレードリサイクルと機能性評価	未利用リン資源を利用して合成したリン酸カルシウムと排水中のフッ素資源から、アンモニアの吸着性に優れた資材の合成に成功した。これにより廃棄物を生み出すだけのプロセスであった排水処理を、機能性資材の生産につなげるアップグレードリサイクルへと転換できる可能性があるシーズの構築が可能となると期待される。	半導体、太陽電池等のフッ素やリンを大量に使うプラントの排水処理、介護施設や畜産等々の悪臭対策等	富山高等専門学校総務課 kikaku7@nc-toyama.ac.jp
20	環境保全	富山高等専門学校	間中淳	准教授	物質化学工学科	環境汚染物質を液滴に高速濃縮！簡易かつ高感度な環境分析法	水の中に極めて低い濃度で存在する重金属類を迅速に微小体積の液滴に濃縮・分離する技術です。この技術を用いることで、検出が難しい低い濃度レベルの重金属類の比色分析が可能となります。	現場での重金属類の迅速なスクリーニングへの活用を想定しております。	kikaku7@nc-toyama.ac.jp

NO.	出展分野	機関名	出展責任者	役職	所属	出展課題名	技術概要	想定される活用例	お問い合わせ先
21	ナノテクノロジー	佐賀大学	大津康徳	教授	理工学部電気電子工学科	基板非加熱型プラズマスパッタプロセスによる透明で電気を通す膜の合成技術	透明導電膜は、スマートフォン、太陽電池などに広く利用されており、一般的にはマグネトロンスパッタ装置によって合成されています。この合成法では、基板を350℃以上に加熱した状態でしか均一にAZO膜の合成ができず、樹脂などのフレキシブル基板のような低融点材料に均一にできない課題があります。本技術では、レアメタルを含むITO (Indium Tin Oxide) 透明導電膜の代替として期待されるAZO (AlZnO) 透明導電膜を、低融点材料のプラスチックやガラスなどの基板表面に対して独自に開発したスパッタ装置を用いることで基板加熱なしで均一に合成することに成功しました。	・フレキシブル基板など低融点材料への均一コーティング (次世代スマートウォッチなど) □ ・透明性を維持しつつ、導電性を有する材料表面への均一コーティング (自動車フロントガラスのディスプレイ化)	佐賀大学 リージョナル・イノベーションセンター 知財戦略・技術移転部門 0952-28-8151
22	ナノテクノロジー	三重大学	青木 裕介	准教授	大学院工学研究科	電気泳動堆積により形成される高機能セラミックス-樹脂複合膜	本技術は、電気泳動堆積法を利用して、高い機能性を有するセラミックス/樹脂の複合膜を金属上に簡単に形成する技術です。バインダ材料となる樹脂成分にポリジメチルシロキサン系有機・無機ハイブリッド材料を用いることで、得られる複合膜は、300℃での長期耐熱性を有し、高絶縁性(5kV/50μm)、高放熱性(熱伝導率3.0W/mK以上)を有します。また、応力緩和性に優れるとともに、構造制御により高反射率化が可能となります。□	・放熱性回路基板の作製□ 高放熱、高絶縁で、かつ、長期耐熱性を有するメタルコア基板の作製に利用できます。□ ・パワーモジュールパッケージング技術□ 本技術で作製される膜は、熱応力緩和性に優れることから、パッケージングにおける異種材料接着層として利用することができます。□ ・照明用基板の作製□ 本技術によれば、高反射率の高絶縁膜の形成が可能であることから、照明用基板の作製に利用できます。□	地域イノベーション推進機構 知的財産統括室□ (chizai-mip@crc.mie-u.ac.jp) □ 大学院工学研究科電気電子工学専攻□ 青木裕介 (yaoki@elec.mie-u.ac.jp)
23	低炭素・エネルギー	工学院大学	釜谷美則	准教授	応用化学科	分子状水素の新規吸光度法の開発	現在、様々な分野で分子状水素が利用されている。この分子状水素の定量法には、電極法、ガスクリマトグラフ法などがあるが、呈色させて定量する吸光度法の報告がない。そこで、分子状水素と鉄(Ⅲ)または銅(Ⅱ)と白金コロイドの存在下で反応させると、鉄(Ⅱ)および銅(Ⅰ)が生成することを見出した。□ これらの反応生成物は呈色試薬を加えて容易に定量できるようになった。感度としては、市販されている電極法よりも幾分か高感度であるなどの利点があった。	健康飲料として市販されている水素水濃度の定量、水素水製造機の性能試験、各種の水素水発生研究での発生量確認方法として利用が期待される。□ さらに水素ガスを効率的に吸収反応させることで水素ガス分析としても応用が期待できる。	工学院大学 研究戦略部 研究推進課 産学連携担当□ 東京都新宿区西新宿1-24-2 □ E-mail : sangaku@sc.kogakuin.ac.jp TEL:03-3340-3440
24	低炭素・エネルギー	摂南大学	川上 比奈子	教授	理工学部	水/クロロフィル系太陽光発電燃料電池システム搭載環境調和型建築デザイン	太陽光と水を利用し、これにクロロフィルを組み合わせ、太陽光発電と燃料電池システムをカップリングした環境調和型発電蓄電システムを創成した。透明なクロロフィル太陽光発電パネルを試作し、建築エレメントに活用する。例えば、日本古来の町屋を基調とする建築物と発電パネルを組み合わせるなど、斬新な建築デザインを提案する。昼間は発電した電力で様々な低電力消費家電を稼働するとともに燃料電池に電力を備蓄し、夜間にこれを照明等に利用するシステムである。天然資源の再利用から構築される低炭素系であり、自然環境と完全に調和した新たな住環境システムの提案である。	・屋根、壁、窓などの建築エレメント□ ・太陽光だけでなく蛍光下での水素エネルギー生成が可能であるため、壁・仕切りなどの内装や家具、インテリア小物、装身具にも利用可能。□ ・建築の屋根・外壁に展開した場合、災害に強い分散型発電も実現でき、連ねれば街区も形成可能。□	摂南大学 研究支援・社会連携センター □ E-mail: SETSUNAN.Kenkyu.Shakai@joshu.ac.jp

NO.	出展分野	機関名	出展責任者	役職	所属	出展課題名	技術概要	想定される活用例	お問い合わせ先
25	医療	京都大学	上久保靖彦	特定教授	大学院医学研究科	PI-Polyamide技術（人工遺伝子スイッチ法）による革新的難病治療薬・希少疾病用医薬品	京都大学大学院理学研究科・杉山弘教授の基盤技術である優れた細胞透過性を有するピロール-イミダゾールポリアミドは天然の抗生物質の化学構造を基に開発された合成分子で、ピロール、イミダゾール、β-アラニンユニットがアミド結合で結ばれた単純な構造をしています。目的のDNA配列に選択的に結合する分子を設計することが可能であり、様々なPI-ポリアミドの合成と活性評価に関する技術とノウハウを所有しています。医学研究科・上久保靖彦特定教授は、革新的な本技術を用いて、急性白血病、肺がん、脳腫瘍、小児がんなどの様々な難治性癌に対する新薬開発を杉山教授と共同で行い、難病治療薬・希少疾病用医薬品の提供を目指します。	PI-ポリアミドを転写因子の認識配列に結合するように設計することで、細胞内で転写因子の働きを阻害することができ、特定の遺伝子の発現を抑制することが可能です(OFFスイッチ)。DNAアルキル化剤をPI-ポリアミドに結合させると、転写因子の結合部位以外に結合しても転写を阻害することが可能となり、遺伝子発現の抑制を強めることもできます。PI-ポリアミドにヒストン脱アセチル化酵素（HDAC）阻害剤やヒストンアセチル化酵素の活性化剤やヒストンアセチル化酵素のプロモドメインに結合する分子をPI-ポリアミドに結合させることにより特定の遺伝子群の発現をエピジェネティックな修飾により活性化させることにも成功しています(ONスイッチ)。本技術基盤により多彩な疾患ドライバーを制御することにより、新規の難病治療薬・希少疾病用医薬品として共同開発が可能です。	京都大学大学院理学研究科・杉山弘教授 hs@kuchem.kyoto-u.ac.jp 京都大学大学院医学研究科・上久保靖彦特定教授 kamikubo.yasuhiko.7u@kyoto-u.ac.jp
26	医療	埼玉大学	松岡浩司	教授	先端産業国際ラボラトリー メディカルイノベーション研究ユニット	多価効果およびFRET技術を利用した高感度検出系によるメディカルイノベーション	国立大学法人埼玉大学において、2016年度に先端産業国際ラボラトリーが設置された。メディカルイノベーション研究ユニット(MiU)では、先端産業分野における創薬の研究開発および実用化・事業化支援を通じた地域社会への貢献、グローバル視点での研究開発などを推進している。□ 本フェアにおいては、□ ★複数のマーカーを集積化させることによる活性の飛躍的向上：多価(Cluster)効果□ ★異なる蛍光プローブ間同士の間でエネルギーのやり取りが起こる現象：FRET効果□ を利用した新規検出薬・診断薬の開発について展示発表する。□ ⇒共同研究先をグローバルに探しています!!	がんやウイルス等の早期検出・診断を可能とする薬剤の開発 検出法 ・蛍光測定機を用いた高感度検出 ・ELISA ・イムノクロマト 検出対象物 ・種々のがんマーカー ・ノロウイルス ・インフルエンザウイルス ・デングウイルス ・ムンプスウイルス ・シガ毒素	http://www.saitama-u.ac.jp/aiit/ □ http://md.fms.saitama-u.ac.jp/
27	医療	島根大学	今出 真司	助教	医学部整形外科	自家骨から手術場で精密作製した骨ネジで骨接合する骨折治療システムの臨床成績	骨折治療では通常金属製内固定具を使用するが、これは骨癒合後も異物として残存する。一方で骨移植は一般的な手術手技だが、形状加工は手作業であり緻密な形成は出来ない。出展者は移植骨形成加工に精密機工作機械を応用し、移植骨をネジへ加工することで金属製内固定具を必要としない骨折治療システムを考案した。今回システムの概要とこれまで行ってきた実臨床の成績を展示する。	小さい骨折（手根骨骨折、各種裂離骨折など）、関節内骨折に対する骨接合。偽関節などの骨移植を要するような難治症例。	島根大学医学部整形外科 担当：今出
28	医療	大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部	徐 睿	准教授（教務・国際交流担当）	大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部	知能計算を用いた医用画像のコンピュータ診断支援システム	CTなどの断層撮影法の進歩に伴い、豊富な人体内部情報が、三次元的な医用画像で現される。データが膨張になったので、医者読影の負担を増加し、誤診も増えてきた。画像解析や人工知能などの知能計算技術を用いて、コンピュータで自動的に三次元的な医用画像を解析させ、精密的な診断情報を医者に提供し、より正確で診断結果が得られる。また、この技術が、病気の早期発見にも有用であると考えている。	じん肺におけるCT画像の診断支援システム、肝硬変におけるCT画像の診断支援システム、骨軟部腫瘍におけるPET/CT画像の診断支援システム	大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部 〒116620 中国大連市 開発区凶強街321号□ TEL：+86-0411-6227-4473□ Email： ise@dlut.edu.cn

NO.	出展分野	機関名	出展責任者	役職	所属	出展課題名	技術概要	想定される活用例	お問い合わせ先
29	医療	筑波大学	西村 健	准教授	医学医療系遺伝子制御学	安全な再生医療を実現させる高純度分化細胞選択法	iPS細胞等の幹細胞から誘導した分化細胞を用いた再生医療は、様々な疾患に対する根本治療になりうるため大きく期待されている。しかし、分化組織に混入した未分化細胞等による腫瘍形成等のリスクが報告されており、高純度な分化組織を得る方法の確立が望まれている。それに対し我々は、分化細胞特異的miRNAの機能を利用し、独自の自動除去型SeVdpベクターによって分化細胞のみを選択する方法の開発に成功した。本技術を用いることによって、腫瘍原性の無い安全な分化細胞を用いた再生医療が実現できる。	分化細胞特異的miRNAを変えるのみで、本技術は様々な分化誘導に応用可能であるため、本技術を活用して、様々な種類の高純度分化細胞を単離することが可能である。そしてそのようにして得られた分化細胞は、安全な再生医療を実現する移植用細胞として活用できる。また、本技術を用いると簡単に大量の高純度分化細胞を得ることができるため、創薬研究の薬効・毒性試験等に用いる細胞を取得するための技術としても活用できる。	ken-nishimura@md.tsukuba.ac.jp
30	医療	東海大学	住吉 秀明	講師	医学部医学科再生医療科学	クラゲコラーゲンを用いた皮膚再生を促進する人工真皮	人工真皮は臨床に応用される最も成功した人工臓器である。本技術はミズクラゲコラーゲンを配合することによって、既製品で課題とされていた自己表皮による再上皮化と肉芽形成を著しく促進し、治癒を速やかに実現するものである。本技術に用いられているコラーゲンスポンジには生体皮膚の持つ緻密なコラーゲン線維を再現した構造と、表皮細胞接着に適するよう、スポンジ最表面のみをコラーゲンナノ薄膜で被覆する技術を確認している。これにクラゲコラーゲンで促進される宿主細胞の浸透が加わり、皮膚の構造を再現することが可能となる。	<ul style="list-style-type: none"> 自己細胞による再生を促す、新しいコンセプトの人工皮膚の開発。 細胞の遊走を促す成分を活用した再生促進薬の開発。 手荒れ、軽微な傷用ハンドクリーム、絆創膏への応用。 	東海大学産官学連携推進課 https://reg31.smp.nep.jp/regist/is?SMPFORM=lhrc-oarjs-3af4dd66a9395d5f75bf2b8cde2278bd
31	ライフサイエンス	岩手大学	高木 浩一	教授	理工学部	農業・食品への高電圧・プラズマ活用技術	本技術は、フードサプライチェーンの各フェーズ（農産物の栽培、収穫後の鮮度保持、食品加工）で効果的に高電圧およびプラズマを活用して、効率化を図るものとなる。高電圧・静電気現象は、たんぱく質の構造変化や空中浮遊菌の凝集・捕集を可能とする。また、静電気現象で生じるプラズマには化学的に活性な粒子を多く含まれる。これらは、植物の生長促進を促し（RNS）、生長を阻害する菌の不活性化させる（ROS）。具体的に、1）プラズマを用いた液肥栽培における植物の生育促進および病原菌の不活性化、2）高電圧を用いたキノコの子実体形成、3）プラズマを用いた混載輸送コンテナ中のエチレン分解、4）交流電場を用いた水産物の鮮度維持、5）パルス電界を用いたブドウ表皮からのポリフェノール抽出について紹介する。	<ol style="list-style-type: none"> 農業生産（Pre-harvest）段階 <ul style="list-style-type: none"> ○高電圧・プラズマによる植物の発芽・生長促進 ○プラズマによる植物の生長阻害菌の不活性化 ○高電圧を用いたキノコの子実体形成（生長モード制御） ロスハーベスト（Post-harvest）段階 <ul style="list-style-type: none"> ○静電気空中浮遊菌捕集による鮮度保持 ○バリア放電エチレン分解による混載輸送中の鮮度保持 ○交流電場による水産物の鮮度保持 食品加工段階 <ul style="list-style-type: none"> ○パルス電界を用いた農産物からの有用成分電気穿孔抽出 ○パルス電界を用いた酵素活性制御 	メール：takaki@iwate-u.ac.jp 電話：019-621-6941 http://www.se.iwate-u.ac.jp/teacher/takaki-koichi
32	ライフサイエンス	高知工科大学	山本 哲也	教授/センター長	総合研究所マテリアルデザインセンター	表面及びバルク特性加工のための酸素負イオン生成・照射技術	酸化物薄膜は電気(E)・光学(O)・磁気(M) 特性を自在に操ることで社会ニーズに応える機能創発・強化・持続を可能とさせる特異な物質群である。一方で EOM 特性はいずれも薄膜中の酸素欠損(空孔)の密度・無秩序/秩序性に左右される。成功例は高温超伝導であり、O Enginerring の幕開けとなった。当方の独自研究開発に基づく酸素負イオン生成・照射技術は酸素空孔の自在制御(空孔密度制御・格子間酸素制御・金属元素電荷制御など)を可能とさせる国内外で唯一無二のわが国発の技術である。従来のプラスイオンを用いた薄膜加工に比較して、低温・低ダメージが特長であり、適用範囲は金属表面(自然酸化膜など)加工や異種材料間の接着制御にも及ぶことがその特徴である。	酸化物薄膜の耐熱耐湿耐光制御(劣化・経時変化制御加工)、酸化物薄膜における導電型(n, p型)・導電性(良導体・半絶縁性など)制御、バイオ応用材料のための金属/無機薄膜表面での活性酸素創成・機能強化維持制御、金属薄膜の耐食性制御のための自然酸化薄膜制御など。	http://www.ele.kochi-tech.ac.jp/yamateko/index0.html

NO.	出展分野	機関名	出展責任者	役職	所属	出展課題名	技術概要	想定される活用例	お問い合わせ先
33	ライフサイエンス	奈良先端科学技術大学院大学	加藤 晃	准教授	先端科学技術研究科 バイオサイエンス領域	細胞へ導入した遺伝子の発現診断	細胞へ導入した遺伝子由来のmRNA蓄積量が意図せず極めて低い場合がしばしば報告されている。そもそもmRNAは必ずある確率で分解され、その分解はmRNAの配列／構造に依存する。これまでにmRNAの内部切断部位の網羅的な同定手法が報告されているが、我々は、より網羅的かつ定量的に解析できるTruncated RNA end sequencing (TREseq)を確立した。本技術により対象mRNAのどこでどれだけ切断されているか詳細に解析可能となり、目的遺伝子ごとに最適化された発現システムの構築が可能となる。	<ul style="list-style-type: none"> ・内在mRNAの網羅的切断部位解析 ・細胞へ導入した外来遺伝子由来のmRNAの切断部位解析 ・検出された切断部位への変異導入によるmRNAの安定化 	研究・国際部 研究協力課 研究推進係 TEL:0743-72-5930 FAX:0743-72-5194 E-mail:ken-sui@ad.naist.jp
34	シニアライフ	大阪府立大学	中川 智皓	准教授	工学研究科機械工学分野	人と協調するパーソナルモビリティ・ビークルの運動制御技術	個人の移動手段であるパーソナルモビリティ・ビークル (PMV) は、自動車に比べ、軽量であり、車両に対する人間の比重が大きい。よって、人間の挙動が系全体に与える影響は無視できない。そこで、本研究では、人間の姿勢安定化等に着眼した運動を三次元動作解析を用いた実験およびマルチボディダイナミクス (多体系の非線形な運動を詳細に記述できる解析手法) による運動解析を行い、PMVと人間の系全体の安定性や操縦性を把握する技術開発を行っている。また、パーソナルスペース (他者の侵入により心理的緊張が生じる領域) を考慮し、周囲歩行者にとっても、安全・快適なPMVの運転支援システムの構築も目指している。	PMVには様々な形態 (車輪数、車輪配置、立位・着席などの違い) が考えられ、実際、多様なデザインおよび目的のものが開発されてきている。若者向けであれば、人間の重心移動で車両を操縦するSegway等の倒立振り子型車両、お年寄り向けであれば、電動シニアカーなどが挙げられる。提案技術であるPMVと人間 (操縦者) の力学的協調の知見は、各々の目的に応じた新しい形態の車両に対する安全性や操作性の把握に役立つことはもとより、PMVのみならず、個々人が用いる機械 (福祉機器等) での安全・快適な制御にも活かされることが考えられる。	大阪府立大学研究推進本部URAセンター TEL:072-254-9128 Fax:072-254-7475 E-mail:URA-center@ao.osakafu-u.ac.jp
35	シニアライフ	福島大学	吉田 樹	准教授	人文社会学群 経済経営学類	公共交通運用に着目した地方版MaaSの計画技術	人口減少と超高齢社会に直面するわが国の地方部において、市民のアクセシビリティを確保するためには、小規模かつ短距離の交通需要に対応した「小さな交通」が必要であるが、経済性を発揮しにくく、事業継続の面で課題が大きい。そこで、在来の公共交通とこれらのモビリティを一体に提供し、利用者自身が最適なモビリティをシーンに応じて選択できるようにするMaaS (モビリティのサービス化) の概念が有効である。本展示では、地方部におけるタクシーのシェアリングや運賃定額制など、MaaSのプラットフォームになる計画技術について報告する。	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通事業者の事業計画への適用 ・自家用車の活用 (シェアリング) と公共交通機関の有機的な連携 ・地方公共団体が策定する地域交通計画への適用 	福島大学研究振興課 〒960-1296 福島市金谷川1番地 電話 024-548-5248 FAX 024-548-5209 メール chizai@adb.fukushima-u.ac.jp
36	情報通信	岡山県立大学	渡辺富夫	教授	情報工学部	人を引き込む身体的インタラクション・コミュニケーション技術	うなずきや身振りなどの身体的引き込みをロボットやCGキャラクタのメディアに導入することで一体感が実感できる身体的コミュニケーション技術と、人を引き込む身体性メディア場の生成・制御技術を開発している。本技術は、人とのインタラクション・コミュニケーションの解析理解と創出支援技術であり、超高齢社会、高度メディア社会の生活情報技術である。とくに音声から豊かな対話動作を自動生成する技術は、ロボット・玩具、メディアコンテンツ、e-Learningやゲームソフト等に導入・実用化されており、福祉・教育・エンタテインメントなど広範囲な応用が容易に可能である。	<p>(1)従来技術に対する新規性・優位性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声からコミュニケーションの引き込み動作を自動生成 ・ユーザに一体感とともに自然な発話やインタラクション促進効果 ・ユーザの語りかけに対するかわりを実感できるシステム構築 ・開発・製作予算の削減、商品の魅力アップ <p>(2)想定される活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションロボット、メディアロボット、玩具・ゲーム、モバイル端末、コンテンツ制作、e-Learnig・学習支援、福祉ケア、会議支援等 	http://hint.cse.oka-pu.ac.jp/

NO.	出展分野	機関名	出展責任者	役職	所属	出展課題名	技術概要	想定される活用例	お問い合わせ先
37	情報通信	立命館大学	熊木 武志	准教授	理工学部 電子情報工学科	LED照明に新たな価値を提供する応用技術 ～照明から防犯・娯楽へ～	<p>本技術は、既存のLEDに新たな価値を提供する制御機構を付加した、防犯システムに関するものである。□</p> <p>LEDは近年一気に市場に普及した。今後この分野を更に発展させるため、新たな機能を付加することが必要である。□</p> <p>本技術では、発光条件や点灯周期を工夫し以下を実現する。□</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン等による、盗撮等の被害を抑えるためにLEDの点灯周波数を制御してフリッカノイズを発生させ撮影制限を加える。□ ・撮影制限ノイズにデジタル情報を付加し、撮影データに位置情報等を加える。□ ・モバイル機器との撮影制限を実施しつつ、エンターテインメント等にも活用可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館等における撮影制限区域の照明□ ・書店等におけるデジタル万引きの防止□ ・エスカレータ等における盗撮行為の防止□ ・アミューズメント施設における照明 	liaisonb@st.ritsumei.ac.jp
38	情報通信	和歌山大学	呉 海元	教授	システム工学部	俯瞰視RGB-Dカメラを用いた個人再識別	<p>個人のプライバシーを保護するために、入り口に設置する俯瞰視RGB-Dカメラで撮影された人物の顔が映らない俯瞰視画像を対象とする個人再識別を行う。本研究は、短時間内に人物の服や髪の色、体格は変わらないと仮定し、それらの個人特性が持つ色情報や画素数を積極的に利用した個人再識別用特徴記述方法を提案し、実装したシステムによって、従来のように人物の顔・指紋・掌紋などの個人情報を利用せず、プライバシー保護を優先する方式を実現する。</p>	<p>提案システムは、Society5.0の一部として、出退勤管理をはじめ、バス・電車運賃の自動決算、公園内・施設館内の人数管理、「未来の高齢者見守り支援」などの実現に貢献できる。</p>	和歌山大学・システム工学部・教授 呉海元□ wuhy@center.wakayama-u.ac.jp
39	機関紹介	成渝日本経済文化交流協会	小泉博之	専務理事事務局長		日中産学連携支援団体	<p>外交官出身、行政出身、金融出身、監査法人出身の日中両国のメンバーが中国西南部（四川省、重慶市、貴州省、雲南省）と日本との産学連携事業の支援を提供致します。大学の研究成果の事業化、成長戦略にとって重要な事業計画・資本政策の策定、業務資本提携、株式上場のための支援を行います。日中間の業務提携では各国の商習慣や制度の違いによって双方にとって大きなストレスとなりますが、双方の意識のギャップを埋めることによって日中間の産学連携事業の障害を発見し、取り除き、日中合作のシナジーを生み出すよう尽力致します。</p>	<p>日中両国の大学の持っている資源を有効活用し、中国の資金力・市場力と日本の技術力・製品サービス力を適切に組み合わせることによって创新型合作事業を展開することを想定しております。それは日本側が中国の大学や企業に対して優位性ある技術や製品サービスを中国で事業化する日本アウトバウンド事業、および中国側が日本の市場で事業化する日本インバウンド事業です。具体的な例は、前者では日本の大学が持つ医療、創薬の技術を中国の大学で共同研究し、中国の市場で事業化すること、後者では中国の大学病院が日本の大学病院に患者を送り込み高度医療治療を受けて頂き中国での臨床医療発展にお役に立てることです。</p>	電話番号 03-5830-7758□ eメール info@psal.jp□
40	機関紹介	日中経済協会	澤津直也	所長代理	北京事務所	日中経済協会の推進する課題解決型ビジネスマッチング活動の紹介	<p>日中経済協会は、日中国交正常化の1972年、通商産業省（現・経済産業省）及び経済団体連合会（現・日本経済団体連合会）を中心に官民の支援のもと設立された日中経済交流の専門団体。それまで日中間の重要なパイプ役を果たした「LT貿易」の廖承志・高碕達之助事務所や「MT貿易」の日中覚書貿易事務所が築いた信頼関係と業務を継承。毎年派遣している訪中代表団や「日中省エネルギー・環境総合フォーラム」の開催をはじめ、関西本部や中国4事務所（北京・上海・成都・瀋陽）と連携して活動。</p>	<p>中国政府や産業界トップの訪日招聘、地方省市の指導者レベルとの交流等、日本経済界の対中交流窓口として時代のニーズに合わせた事業活動を展開中。</p>	03-5226-7351（東京本部代表）